

ぐるっけ

平成六年七月二十七日第三種郵便物認可  
平成二十二年二月一日発行(毎月一回一日発行)  
第十六卷第十号(通巻第一九〇号)

鈴



ぐるっけ

俳句雑誌

GLOCKE

第190号

2. 2010

宝果

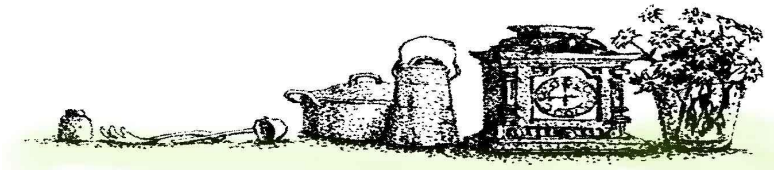
品川 鈴子

梯子車で千木を見下す出初式

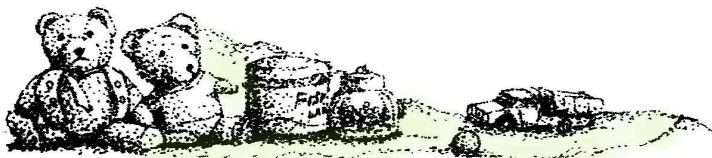
通勤電車コートの羽毛ダウン何万羽

注連はづしロビー胸像ぽつねんと

喜寿迎ふ日も一人分根深汁



夫の字のカルテ二万部炉に焚かる  
焼却炉震れペン書きカルテ焚く  
福豆をばら撒きて焚く旧カルテ  
梅の花こぼる一子に何賭けむ  
伊予柑の系譜を示し宝果めく  
新種とて銘と落款伊予柑に



# 玉

# 鈴

# 吟

東京 後藤とみ子

菊花展手まり並べたようであり  
菊<sup>じきど</sup>堂の蓮飯目当て薄紅葉  
赤門を入りてよりの鶉の声  
予報士の熱弁となる台風前  
客出入りさせず顔見世四段目

大阪 小林 玲子

六甲の山模る句碑に鶉遊ぶ  
摩耶の秋牧場の口バは首を垂れ  
落し物呼び止められる声さやか  
吹きだまる落葉を踏みに車椅子  
ずわい蟹もて全快の卓飾る

香川 近藤 倫子

杜鵑草嬉しきことも打ち明けず  
ピンヒールの跡続く径木の実落つ  
玉入れに奥の手のあり零余子飯  
月昇る時に合はせて待ち合はず  
夜仕事の母にも若き頃のあり

兵庫 坂口三保子

文化の日旧友集ひ句碑除幕  
句碑除幕用一号吹き通る  
紅葉山白煙昇る窯ありて  
紅葉映ゆ談山神社の拜殿に  
紙を漉く土間に愛犬つながれて

兵庫 佐方 敏明

冬の蠅打てと新聞渡さるる  
初時雨酒屋を覗くモアイ像  
鶴林寺住職の児の白マフラ  
椿の実はじけ悩みが一つ消ゆ  
ナスカ絵の如く粉殻撒かれたる

東京 佐田 昭子

躑くは小石勤労感謝の日  
円卓で意外な人と猩猩木  
イエスノーぶれなく生きて冬に入る  
うたたねのアフロデイトや大花野  
孔子廟へ階十三段冬ぬくし

兵庫 塩出 眞一

摩耶山のバス停脇に猪ぬた場  
句碑除幕したり紅葉づる峰寺に  
除幕せし句碑黒みかげ菊載せて  
ハイカーが除幕句碑見る文化の日  
海へ向く敦盛塚に雪螢

大阪 島 純子

亡夫好み丹波の枝豆息子らに  
秋の朝孫の挨拶いごつそ褒め  
牛窓の浦に整列かき筏  
なまこ壁閑谷の里つた紅葉  
初冬に句碑は厳か頭たる

香川 島内 美佳

機内より色鮮やかな紅葉山  
櫓門紅葉も入れて写真撮る  
日本海穂すすき越しに見る夕日  
車酔ひ和らいでゆくきのこ汁  
行楽地脇で売られしきりたんぽ

大阪 島本 知子

見るだけで幸せになる聖菓かな  
七五三最後はママに抱っこされ  
姉ちゃんが先に欲しがる千歳飴  
保育所の下は小児科流行風邪  
木の葉落ちみんなで暖をとっており

愛媛 鈴木てるみ

除幕式終りし摩耶の秋夕焼  
山粧い句碑も加えて天上寺  
御影石濡れて名句の星月夜  
境内に着付場あり七・五・三  
秋裕子育てに帯緩みたり

大阪 鈴木 浩子

首もたぐ大根奈良への鉄路跡  
碁敵に雨の夜更けのとろろ飯  
菓舗の屋根団子もどきの毒草  
児等の目にキリンの尿うるこ雲  
地の栗もゴルフの記念品となる

香川 陶山 泰子

入魂の句碑に白菊散らし祝ぐ  
一坪の畑を守る秋の朝  
隣国に花札流行り鳥渡る  
先輩もみんな独身泡立草  
秋の朝肌よみがえるマッサージ

岡山 瀬口ゆみ子

備前路の煉瓦煙突秋惜しむ  
垣根なき苑易々と鹿渡る  
登りゆく艶紅葉まだ整わず  
言祝の眼裏に今紅葉照る  
さじ加減時に辛口そぞろ寒

# 薬草歳時記

(二八九)アサツキ(浅葱)

須賀悦子

あさつきやどう結びても女文字

大島 蓼太

関東以西の温かい海岸地方で自生する多年草であるが、冬の最中でも日だまりで若々しい新芽を出す。春一番の青野菜として二〜四月が旬とされるが、最近では、ハウス栽培が盛んになり、一年中手に入れることができるようになった。

葱の仲間でも葉が最も細く、漢名では「糸葱」、その繁殖力から「千年葱」と言われ、葱よりも浅い緑色をしていることから「浅葱」と名づけられた。

葱より多くのビタミンB<sub>1</sub>、B<sub>2</sub>、C、K、カルシウム、硫化アリル、βカロチンを含む。又、あさつきの茎を折ると黄色い汁がでるのが特徴であるが、これはフラボノイドという有効成分である。

薬用部分は鱗茎(細香葱<sup>サイコウコン</sup>)。鱗茎はラッキョウに似ているがやや小さく、三月〜四月に採取。

痛風、筋肉痛などには潰して塗布するとよいといわれる。

成分の硫化アリルは、抗炎症作用、殺菌作用、血行促進作用があるので、風邪に効果があり、高血圧、糖尿病、動脈硬

化、不眠症、にも良いとされる。

花は可愛い紫桃色で半球状をした集散花序が茎の先に密集して五月〜六月頃に咲く。繁殖は分球で行うので、地上部の枯れた七月頃、鱗茎を掘り出し、乾燥貯蔵した鱗茎を八月初旬、又は十一月上旬に植え付ける。

作り方は簡単にプランター・空き箱利用などで楽に栽培でき、芽が伸びてくれば、根を引き抜かず葉だけを切り取ると、その後に新葉がのびて次々と収穫できる。八月植え付けの場合、十月頃収穫できるが、十一月になると葉が枯れてしまうので、そのまま置いておけば二月ごろにまた新葉がでてくる。順次収穫して、更に五月中旬まで栽培を続けければ鱗茎が育ち次の栽培に使用できる。十一月植え付けの場合は二月頃、芽が出始めるので、草丈が二十cm位になったら収穫を始める。

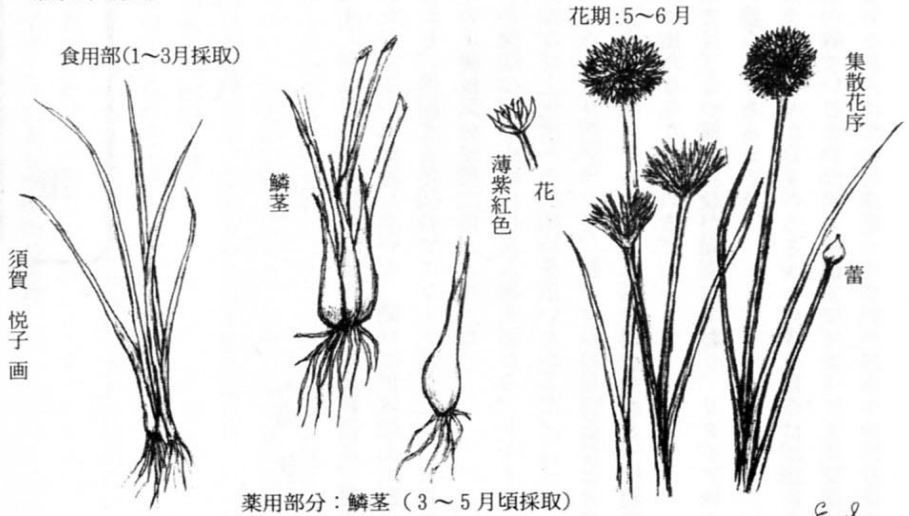
食用として薬味に使われるのが一般的であるが、浅葱は分球や生長が早いことから、子供の健やかな成長を願い、飛騨地方では一カ月遅れの雛祭りのひな壇の飾り付けに利用されているという。山形では、春を告げる野菜のひとつとして、おひたし、酢味噌和え、卵とじ、マリネ、妙めものなどにするが、ぷつぷりと膨らんだ白い鱗茎部分も甘味、風味があり美味しいものである。

参考文献 『牧野原色薬草大辞典』北隆館

著者略歴 神戸薬科大学卒、薬剤師

アサツキ [ネギ属] (ゆり科)

*Allium schoenoprasum* L.var. *foliosum* Regel (= *A.schoenoprasum* L.)  
(浅葱、胡葱)



浅葱を薬味に選ぶ手前蕎麦	あさつきの葉を吹き鳴らし奉公す	高野素十
* 藤田かもめ	胡葱や野川するどく街中へ	皆川盤水
(* ぐろっけ)	胡葱を朝市に買ふ飛驒の町	石原八束
	あさつきの少うしかためあさぼらけ	松澤昭
	浅葱の苗賜わりぬ幾年も	* 奥田妙子
	浅葱を辛目に和えて父好み	* 北畠明子
	咲かせむと野の浅葱を鉢に植う	* 塩出眞一
	あさつきのホロ苦さに酔うひとり酒	* 須賀悦子
	あさつきを散らし一皿ディナーめく	* 中島節子

# 鈴の奏

品川鈴子選

ねつとりが子には不評のむかご飯 大阪 吉田 和子

鯛雲古城の窓の破れしまま

セーヌ河岸黒セーターのらつば吹き

絵の秘話を語るガイドの厚着して

秋深し宛先不明の友如何に

巻雲の速き流れやもみぢ山

二年振もみぢの札所車椅子

萎え指を励まし習ひ美術展

ポスト迄木枯しついて歩みせん

神農の虎をかついで街を行く

木蔭にてクリスマスローズひそやかに

おもたせの柚子を浮べて柚子湯せん

文化の日茅渚一望の句碑開き

秋気澄み鉦鼓のひびく天上寺

初雪の富士真向ひに連句会

身ごなしに芸俵ばせる秋拾

一言も喋らぬ夜あり室の花

兵庫 上田 幸夫

兵庫 中山勢都子

東京 中田 芳子

大阪 古林田鶴子

泣き虫の隣りの童息白し

思ふことありて酒断ち冬に入る

古日記ハッピーエンドとはゆかず

木犀の金粒だけが庭の塵

杖持てばブランドコート気恥かし

獅子頭被る男も歯を見せて

隙間風入らぬ家は馴染めざり

新松子制服変へる嘆願書

秋灯下料理番組録り溜める

秋祭り観る間も有らず婦人会

秋晴や父より大き靴サイズ

廃線のトンネル口に溪薄

夜の秋ひたすら捏ねるパンの生地

数珠玉を校舎の裏で競いとり

金木犀朝な夕なのセラピスト

残る虫和田の笠松跡ここと

底冷の天神社碑に地震の跡

兵庫 改正 節夫

兵庫 植田 雅代

香川 横内かよこ

愛媛 羽生きよみ



# 秀 鈴 記

巻頭 三句 品川 鈴子 評  
四句〜十五句 中尾 廣美 〃

\*選句は全て 品川鈴子

ねつとりが子には不評のむかご飯 吉田 和子

零余子は山芋、長芋、大和芋等の蔓の節々に付く珠のよ  
うな肉芽で、葉が黄ばむ頃熟してぼろぼろ零れる。ご飯に  
炊き込むと素朴な山家の風味なので文人などに好まれる。  
でもパン食に慣れた子らの世代には、芋特有の粘り気が敬  
遠される。家族の食文化もまちまち。

萎え指を励まし習ひ美術展 古林田鶴子

病後はまだ指が思う様には動かず、不自由になったが、  
何とか指を労り励まし機能を訓練しながら仕上げた作品  
は、殊の外愛着が籠もり、美術展に並べられた自作が愛お  
しい。

神農の虎をかついで街を行く 中田 芳子

神農祭は大阪中央区の道修町にある少彦名神社の十一月  
二十二・二十三日の祭礼。葉問屋のビルが建ち並ぶ狭間に  
ちんまりと鎮まる社だが、中国から医薬を伝え創った神は

崇められ、文政五年（一八一三）コレラ流行に新丸薬を發  
売し張子の虎を神前に供えて以来の繁栄。大阪界限では笹  
に吊った虎が首を振りく街を闊歩する。

身ごなしに芸俵ばせる秋裕 中山勢都子

ようやくに暑さも去って、さわやかな秋、着物をしゃきつ  
と着ていられる方の様子です。その所作に歌舞伎役者、能  
楽師などの日本芸能、あるいは舞踊の先生などの着馴れた  
風が偲べれます。いかにも洒落たすきとした人が思われ  
ます。

一言も喋らぬ夜あり室の花 上田 幸夫

おひとり暮しでいらつしやるのでしょうか。冬の夜、長  
い時間をテレビを見たり、本を読んで過ごしていらつしや  
るのが伺えます。ふと気がついたら、一言も喋る機会がな  
かったなっと思われて、まるで温室に咲く花のように黙し  
て坐していたのです。

木犀の金粒だけが庭の塵

羽生きよみ

香りの高い金木犀。しばらくはその香と花の美しさを染  
しませてくれますが、いざ散る頃となると一斉に散り初め  
てみる／＼うちに黄色の絨緞を敷きつめたようになりま  
す。それだけが庭の塵とは何とよくお手入れされているの  
かと思えます。

秋祭り観る間も有らず婦人会

横内かよこ

お祭りは男性や子ども達は会場作りや、御神輿かつぎな  
ど楽しくはずんでいますが、それを支える婦人達は供する  
ご馳走作りや御酒の用意でてんてこ舞いです。鍋の煮上が  
り加減や火の調子、皿鉢などの用意と、声だけを聞き乍ら  
作業をしなくてはなりません。それもまた、皆の喜ぶ様を  
思つて楽しいのです。

夜の秋ひたすら捏ねるパンの生地

植田 雅代

やつと涼しさの少し感じられる晩夏の夜。暑い時にはす  
る気にもなれなかつたパン作り。涼しさにつれて、やつて  
みようと思われたのでしょうか。やれば楽しさも自ずからわ

いて出て、ひたすら捏ねているパンの生地。何か思いをふ  
つけるように、思いがけず夢中になってしまっている様子  
です。

残る虫和田の笠松跡こと

改正 節夫

和田の笠松とは、平清盛が兵庫城を福原京におき大輪田  
の泊（兵庫港）を築いたその地、和田にあつた笠松のこと  
です。笠松を歌つた藤原季経や藤原為家の歌碑が真光寺に  
あります。その寺も今は訪れる人も少なくなっています。  
季節に退却しそびれた虫が鳴いているのと合せて哀れを感  
じられたのでしょうか。

古里の籠に届きし濡れ茸

丹後みゆき

故郷からのお届け物の濡れ茸。古里を離れて幾年もたつ  
てもその季節にあつた贈り物。送つて下さる方の優しさも  
届きます。入っている籠も古里のもの、心配りが行き届い  
ています。人の心の粗になつている時代にすばらしいこと  
です。（以下略）